

仲間でチェーンソーアートの講習も開いている



山村も、「マチ」と変わらない生活です。

6年前、地元の緑の少年団の子どもたち（小学6年生）と一緒に山に入りました。子どもたちと一緒にマツコギ防止のためのテープ巻きの作業を指導するためです。驚いた事に、一度も林床に入ったことがない子どもたちが、8割もいた



山村の生活や魅力を遊びや体験を通じて伝えていきたいと、キャンプ、川遊び、竹スキー作りなど様々な「身近な自然を感じる」体験活動を行う。また、里山を次世代に遺す活動も展開中

のです。

こんなに素晴らしい自然があるのに、こんなに素晴らしい山や川が身近にあるのに。どうして？名田庄に住んでいることを、もっと楽しんでほしいのに。

そんな思いが高じて、平成16年春「森んこ」を作りました。はじめは、3人（地元1人、1ターナー2人）でスタートしました。森林を中心に、「身近な自然を感じる」体験活動を始めました。

林研グループでありながら、私たちは、林業そのものには、直接働きかけていません。間伐材を利用して、チェーンソーで丸太のクラフトをしたりするのは、メンバーに林業関係者が半数いて、山村に住んでいて、森林を活動の中心にしているだけです。だから、川や里も活動の場です。今後は、農

WE LOVE forest !
林業研究グループ

NPO法人森林楽校・森んこ
福井県大飯郡おおい町名田庄

会員数 11名
設立 平成16年4月（森んこ）
平成17年9月（NPO法人森林楽校・森んこ）

■遊びを通じて、山村を感じる活動

「竹スキーを作ろう」という体験活動を2月23日（土）に主催しました。今年で2回目です。子ども16名・大人6名の参加をいただきました。作業が始まると、講師の地元のお年寄りから「道具は大事にしいや。ほら、ここはこやや。鉈はこや使うんや」などなど、いろんな声がかかります。

この企画の準備をする時に、お年寄り数人から、いろいろな話を聞きました。話は子どもの頃の遊びや山村での生活・山仕事や炭焼きの事へと、どんどん広がります。このような先輩たちとの交流が、私たちにはかけがえのない財産になります。素材になる竹や板、使う道具、薪や火、うまく滑るための工夫など、自ら作り遊んだ昔のおもちゃは、すべて、山村の生活と密接なつながりを持っています。そこには、与えられるだけの、今のおもちゃにはない、奥行きと豊かさを感じます。

■森んこで、

心の中に小さな木を一本
96%が山林である名田庄地区（おおい町）に住みながら、毎日山を見ているのに、大半の人々が、山に背を向けて暮らしています。

理するための、「老左近里山俱樂部（仮称）」を結成しようという準備中です。

「森林楽校・森んこ」は、少しずつ地域に根ざしているように思いますが。多くの人々からの応援を実感しています。その分、責任も感じるようになってきました。

思いっきり人生を楽しんでやろう。そのような生き方をするための「力」として、私たちは、「楽力」を理念として掲げています。

この地域ならではの生き方を、名田庄には、そんな生き方を許し、育ててくれる大きな懐を感じます。感謝するばかりです。そして、いつか、この地域の素晴らしさを活かせる活動ができればと、微力ながらも、楽しく奮闘しています。

（まとめ/代表・萩原茂男）